

輸 入 粗 飼 料 の 情 勢

全 酪 連
購 買 生 産 指 導 部
購 買 推 進 課

北米コンテナ船情勢

北米の各港の混雑状況は日々悪化しています。ロサンゼルス港、ロングビーチ港の沖合では、この1ヶ月常に滞船が30隻を超えている状況です。滞船の影響で本船の到着が遅れているため、当初の予定より2週間以上遅れて出港されています。滞船解消の目途が立たない中、船社によってはスケジュール調整として、2月運航の本船減便を発表しており、当該本船で予約していた船腹のキャンセルが発生しています。この減便の影響で船腹が一層逼迫しており、希望入船日に沿った船腹予約の確保ができず、入船希望の1ヶ月後の本船へ振替られるというケースも出ています。

また、スケジュールの遅れは港湾労働者の不足も起因しています。

アジアから来る巣ごもり需要向けの輸入貨物増加に加え、最近では新型コロナウイルスに罹患する港湾関係者が増加し、労働力不足により荷役能力が低下しており港混雑を助長させています。現地メディアによるとロサンゼルス港、ロングビーチ港の港湾労働者では600人を超える感染者と12人の死者が出ており、濃厚接触者を含めると港湾労働者の1割超に相当する、およそ1,800人が現在労働から遠ざかっています。労働力不足解消に向け港湾労働者への早期のワクチン接種が待たれている状況です。

アルファルファ、チモシーが多く出荷されるPNWも同様に本船の大幅なスケジュール遅延や空コンテナ不足、スケジュール調整による減便の影響で、船腹が逼迫しており出荷直前での船腹予約のキャンセルが増加しています。またPNWは冬場の強風で荷役作業が止まりやすいバンクーバーを経由地としており、シアトル港、タコマ港を出港したものの、バンクーバーへ港沖合で2週間近く滞船するため、日本への到着が大幅に遅れています。

当初はこのような状況は中国の旧正月である2月がピークとみられていましたが、PSW、PNWとも改善の兆候は見られず、当面この混乱が続くことが予想されています。

海上運賃に関しては各船会社1月に続き2月もGRI（海上運賃一斉値上げ）を発表しており、1コンテナあたり100ドル～300ドル程度の海上運賃が上昇すると見込まれており今後の動向に注視が必要です。

ビートパルプ

【米国】

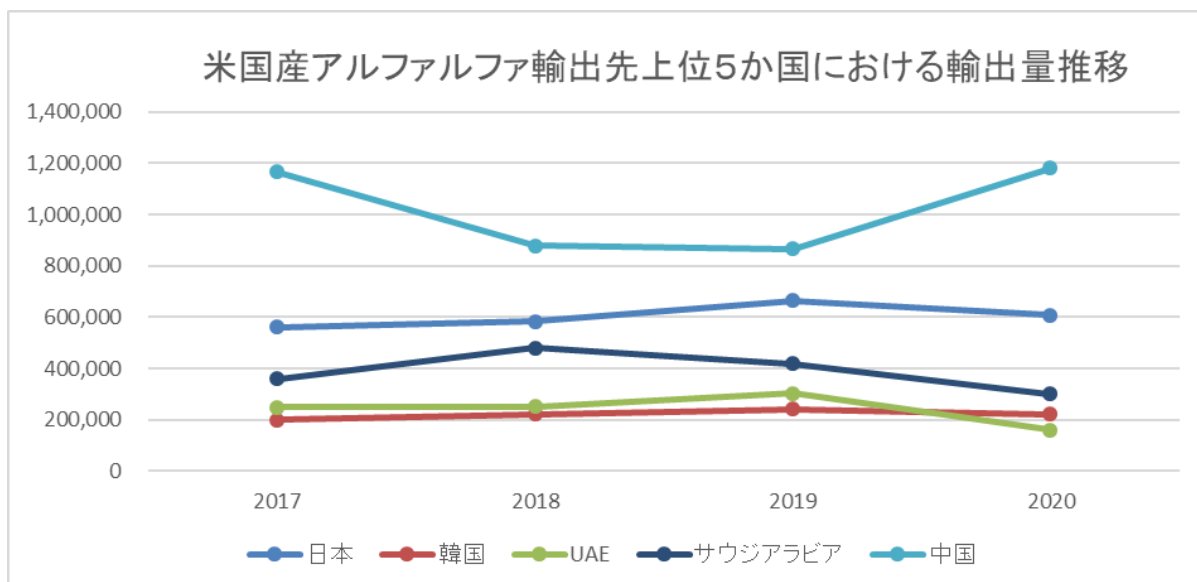
産地では例年に比べ温暖で乾燥した気候が続いているため、収穫されたビートの保管状況が懸念されていますが、現在のところ問題となっていません。

主産地であるクリスタル地区（レッドリバーバレー北部）とノースダコタ州ミンダック地区では3月下旬から4月中旬にかけて20-21年産の製糖作業を終える見込となっています。ミネソタ州サザンミネソタ地区では収穫量が多かったため5月上旬まで工場の操業を行う予定です。

21-22年の作付面積については、クリスタル地区は微増、ミシガン州では微減となりモンタナ州においては昨年並みと予想されていますが、生産者の作付け意欲が強いいため、米国全体としては昨年並みから若干増加すると予想されています。

アルファルファ

米国農務省（USDA）発表の輸出統計によると20年は1-12月を通じ米国から日本向けに60.7万トンのアルファルファが輸出されました。これは過去3年平均並みの数量となっています。中国向けには118万トンが輸出されており、年間輸出量が100万トンを超えたのは中国政府により追加課税が掛けられる以前となる17年以来3年ぶりとなります。一方ここ数年台頭していたサウジアラビア向けは30.1万トンと過去2年続いていた40万トンを割る数量となっています。国内在庫が多いことに加え、20年産は上級品の発生が少なかったことが減少につながったと考えられています。



（単位：トン 出典：USDA）

ワシントン州

20年産は高品質のアルファルファの生産量が限られたことで需要は堅調です。また

中級品、低級品についても内需及び輸出向けの需要が高まっており、輸出業者によっては余剰在庫がない状況です。

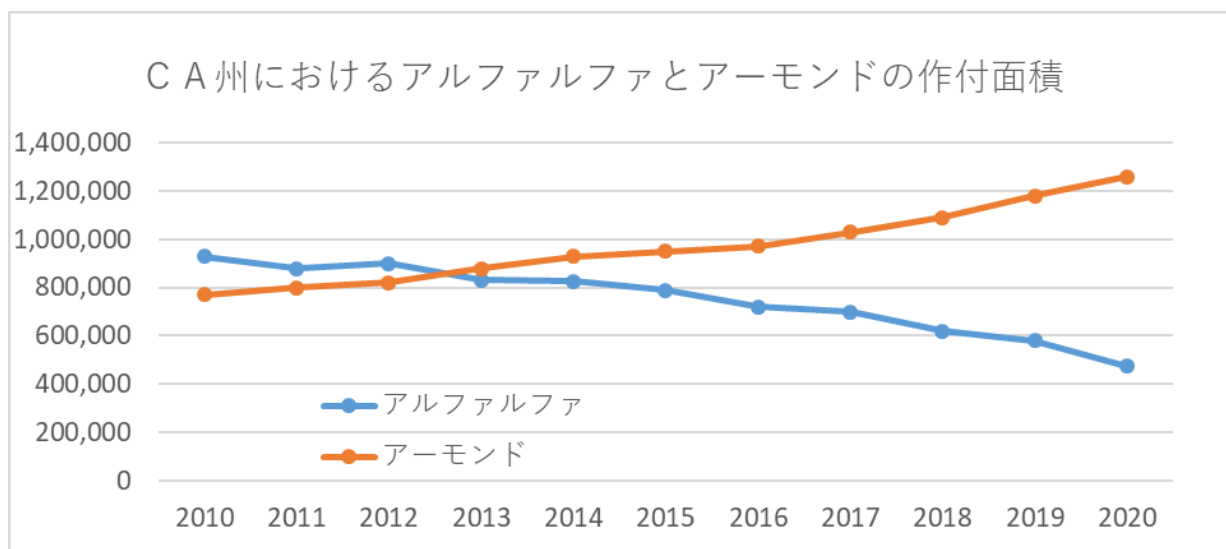
オレゴン州、ネバダ州

オレゴン州とネバダ州及びその周辺の地域では放牧草が不足しているため、肉牛生産者からの需要は強く、下級品においても例年に比べ高い価格帯で取引されています。

カリフォルニア州

米国最大の酪農州と知られているカリフォルニア州ですがアルファルファの作付面積は年々減少しています。米国農務省発表によりますと、20年同州でのアルファルファの作付面積は前年比82%の47.5万エーカーとなっており、10年前の93万エーカーと比較すると半減したことになります。

特に北カリフォルニアでは換金性に優れ、水の要求量の少ないアーモンドへの転作が年々進んでいます。同州のアーモンドの作付面積は13年にアルファルファを抜き20年はアルファルファのおよそ2.6倍となる126万エーカーの作付けがされたと予想されています。北カリフォルニアの気候はアーモンドの栽培に理想的な土地とされており、世界のアーモンド生産量の80%を占める一大産地となっています。世界的にアーモンドの需要が堅調なことから、今後も北カリフォルニアにおけるアルファルファの生産を取り巻く環境は厳しいことが予想されます。



(単位：エーカー 出典：USDA)

米国産チモシー

20年産の1番刈は上級品の発生が限定的になり価格は高騰しましたが、引き合いは堅調です。低級品についても順調に出荷されています。2番刈についても上級品の発生が限られたため価格相場は上昇傾向にあります。

スーダングラス

産地では1月下旬に降雨がありました。この影響で各輸出業者は製造作業を中断したため、出荷に遅れが生じています。

インペリアル群灌漑当局から発表されました1月15日付のエーカーレージレポートによりますと、スーダンの競合作物となる小麦が13,662エーカー作付けされています。これは昨年よりも8,300エーカー以上増加しています。スーダンの作付けはまだ先ですが、小麦は早播スーダンの作付面積に影響するため、今後も小麦の作付面積には注視が必要です。



(降雨後の輸出業者の工場敷地内 1月下旬撮影)

クレイングラス (クレインは全酪連の登録商標です)

産地灌漑当局発表の1月15日付のエーカーレージレポートによりますと、クレイングラスは昨年同期比92%となる20,455エーカーが作付されています。作付面積は減少していますが、依然として20,000エーカーを超えており、歴史的に見ても高い水準の作付面積となっております。

ストロー類 (フェスキュー・ライグラス)

20年産は19年産からの持越し在庫がない状況で収穫期に突入したことから、輸出業者が在庫確保のために旺盛に買付を行ったため産地相場は上昇し、昨年よりも高値となっています。現在も収穫期初期に形成された相場がそのまま続いており、産地相場は堅調です。

フェスキューストロー、アニュアル種ライグラスストローについては、日本、韓国からの旺盛な引き合いにより産地在庫は余剰のない状況となっております。

カナダ産チモシー

アルバータ州南部レスブリッジでは、1番刈は余剰なく、ほぼ成約済みとなっております。2番刈は中級品で多少供給余力があるものの、内需を中心に出荷されています。同州中部クレモナにおいても需要は内需及び輸出向けに堅調です。時期尚早ではありますが

が21年産カナダチモシーの作付面積についてはレスブリッチ、クレモナ両産地とも20年産並みの面積が予想されています。

豪州産オーツハイ

豪州統計局発表の20年1-12月の豪州産オーツハイ輸出量によりますと、20年は日本向けには前年比97%となる、40.8万トンが出荷されています。20年は夏場の酷暑や、北米産グラスハイに比べ割高感があったことで、オーツハイの需要が減少したと考えられています。

一方年々数量を伸ばしている中国向けは20年は前年比145%となる35.8万トンが輸出されており、日本向け輸出数量に肉薄しています。産地では引き続き中国からの需要が旺盛なため、輸出業者によっては、すでに7月まで製造予定が埋まっている状況です。輸出業者によると中国向けは雨当たりの低級品需要は低く、日本と同様、上級品中心の需要となっています。昨今の旺盛な需要の背景には、中国国内の乳価が好調であることが考えられています。

豪州コンテナ船情勢

船積み状況は改善が見られず、スケジュールは引き続き乱れています。各輸出業者、北米同様、逼迫した船腹の予約に苦戦しており1か月半以上先の現地出港（3ヶ月先の日本到着）でないとスケジュールが確保できないケースも出てきています。

また豪州航路でも各船社でGRI（海上運賃一斉値上げ）を発表しており、海上運賃上昇に伴いオーツハイは値上げされています。

以上